消防大学校だより

幹部科における教育訓練 ～時代を見据えた教育～

消防大学校における総合教育の主体となる「幹部科」は、近年多発している自然災害の激甚化、社会インフラの老朽化に伴う災害などの大規模災害への対応力・指揮能力の向上のほか、安全管理や現場経験の少ない若手職員に対する指導を強化するため、消防職員幹部として発する言葉や行動の質を追求することに加え、柔軟な発想やアイデアの創出・政策立案、人事管理、予算要求、議会対応や市町村部局との連携等の行政運営能力を向上させ、消防全体における組織力の底上げを図ることを目的に年４回実施しています。

令和７年度の「幹部科（第81期）」では、５日間（６月２日から６日まで）のリモート講義に続く、28日間（６月９日から７月16日まで）に及ぶ消防大学校での集合教育で構成した教育訓練を終え、60名の学生全員が無事に卒業しました。

本年度も消防行政を取り巻く現状を踏まえ、次のとおり授業科目の新設を行いました。

○消防行政（新設）
消防本部における離職、採用難の諸課題など、昨今における消防行政の課題について理解するとともに、消防の広域化等、各本部において課題解決の糸口となることを目的に導入しました。

○外国人防災（新設）
増加する訪日・在留外国人の避難支援等に関する課題を認識し、情報伝達の多言語化などの対応方法等、外国人を対象とした防災に関する最新の動向を理解することを目的に導入しました。

そのほかの授業では、消防実務管理の問題点やその対応策、現場指揮論、外部講師による部下指導や教育技法、組織マネジメント、模擬記者会見、消防におけるDXなど、様々な分野の講義が行われるとともに、緊急消防援助隊の受援・応援を想定したシミュレーション訓練、多様な現場を想定した指揮訓練等を行いました。
学科の集大成である課題研究では、テーマを「持続可能な消防組織に必要なこと」に設定し、人材（人財）確保や定年延長に伴う効果的な人員配置、消防の広域化、人材（人財）育成や消防業務の効率化など、その趣旨を捉えた、今の消防行政が抱える多くの課題に対しての研究が発表され、課題解決に向けた糸口をつかむために学生同士で意見を交わすなど、教育訓練の目的である消防の上級幹部になるに相応しい人材（人財）を養成するのに必要な知識及び技術の修得に努めました。

また、授業終了後には、シャトルラン大会と銘打ったレクリエーションを行い、熱心に楽しく学生同士の親睦を深めることができました。

シミュレーション訓練

シャトルラン大会

模擬記者会見

修了した学生からは、「研修を通して多くのことを経験し、学ぶことができた。」「現在の消防に多くの課題があり、答えが見つからないところもあったが、自分自身の引き出しを増やすことが間違いなくできた研修であり有益だった。」「ここでしか聞けない話をたくさん聞くことができた。」といった、こちらにとって励みとなる感想が寄せられております。

幹部科は、現在の消防が抱える多くの課題への理解を深めつつ、それらに正面から向き合って解決策を議論するなど、的確な現状把握のもとに必要な変革する力を養成できる実益ある学科構成となるよう、修了者からの意見も踏まえ、毎年度工夫を行っています。

消防大学校では、全国の消防職員と寝食をともにすることにより、職業人としての連帯感が深まり、卒業後のネットワークも構築できます。各本部からの入校を心からお待ちしています。

教育訓練の実施状況（令和7年4月～7月実施分）

令和7年4月から７月実施分の教育訓練及び卒業（修了）生は、次のとおりです。

学科・コース名		教育訓練期間		卒業（修了）者数
幹部科	第81期	6月2日(月)～7月16日(水)	(45日間)	60名
新任消防長・学校長科	第35期	5月8日(木)～5月20日(火)	(13日間)	47名
警防科	第116期	6月12日(木)～7月31日(木)	(50日間)	48名
救助科	第90期	4月16日(水)～6月6日(金)	(52日間)	48名
予防科	第118期	6月4日(水)～7月23日(水)	(50日間)	30名
火災調査科	第48期	5月22日(木)～7月9日(水)	(49日間)	48名
指揮隊長コース	第30回	5月8日(木)～5月20日(火)	(13日間)	74名
危機管理・国民保護コース	第15回	4月21日(月)～4月28日(月)	(8日間)	44名
合　　計				399名

問合せ先
消防大学校教務部
TEL: 0422-46-1712